

実践研究課題：新学習指導要領への対応を見据えた小学校家庭科の授業研究

和歌山大学教育学部 山本 奈美・村田 順子・今村 律子  
和歌山大学教育学部附属小学校 静川 郁子  
和歌山市立和佐小学校 津田 知美  
日高地方小学校家庭科研究会（代表：三百瀬小学校 西 厚美）  
東牟婁地方小学校家庭科教育研究会（代表：串本小学校 丸本 美和）  
岸和田市小学校教育研究会家庭部会（代表：城内小学校 内田 克美）

## 1. はじめに

平成 29 年に新学習指導要領が告示された。小学校家庭科では、育成を目指す資質・能力を 3 つの柱により明確にし、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化、さらにグローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等の社会の変化に対応した各内容の充実が図られている。これまでの家庭科が目指してきたことから方向性が大きく変わるのではなく、生活の自立の基礎を培う知識及び技能の確かな習得を図るために、実践的・体験的な活動や問題解決的な一連の学習過程が一層重視されている。

小学校家庭科の研究グループでは、これまで連携事業として附属小学校及び公立学校と行ってきた研究活動を今年度も継続し、家庭科としての基礎・基本を大切にしながら、児童に実感を伴った学びを提供できる授業づくりを目指して授業研究に取り組んだ。以下、今年度の活動についてその概要を報告する。

## 2. 活動概要

### (1) 「清掃」を題材とした授業づくり

同じ題材であっても、授業者の課題意識や児童の実態、活用できる教材等の資源によって授業の実際は異なる。平成 28 年度の東牟婁地方小学校家庭科研究会の授業実践を共有しながら、今年度は附属小学校、和佐小学校と連携して同じく「清掃」を題材とした授業づくりに取り組んだ。

清掃の意義として環境教育の視点、すなわち汚れの種類・汚れ方に合わせた掃除ができれば住まいを長持ちさせることができるとの視点を取り入れ、児童が状況に応じた掃除の仕方を考えるのに適した教材の選定を協議した。

1 回目の授業実践は和佐小学校 6 年生を対象として、9 月 18 日（火）第 6 校時に行った。初めに「ホコリはどうやって掃除したらいいのだろう」との問いを設定し、ホコリの性質について動画やポラリオンライトを使って確認した後、扇風機と複数の掃除方法・用具を提示し、グループ活動としてさまざまな掃除の仕方を試みながら考えたこと、気づいたことを整理していった。授業後ただちに研究協議の場を持ち、児童から出た意見や教材の妥当性等について検討しながら授業の改善をはかった。

2 回目の授業実践は教育研究発表会の研究授業として、10 月 27 日（土）に附属小学校にて行った（写真 1）。授業後の協議会では、汚れをとる作業を通して児童の中にさまざまな気づきが生まれていた点、それを引き出すための教材の工夫が評価された一方、児童の気づきが個々にとどまり、全体での共有が不足していた点や、時間配分等の課題が指摘された。児童は教師が準備した掃除方法に加えて、



写真 1 扇風機の汚れをとりながら、気づいたことをワークシートに記入する

グループ活動としてオリジナルの掃除方法を考えることも求められ、多くの内容が盛り込まれたことで1時間の授業として完結することが難しかった。より内容を焦点化することで授業の構成をシンプルにし、本時の目標に向かわせることができるよう授業改善を重ねていきたい。

## (2) 日高地方小学校家庭科研究会における授業研究

今年度の和歌山県小学校家庭科教育研究会日高地方大会に向けて、以下の公開授業及び研究発表の検討を行った。

公開授業：由良小学校5年「食べて元気！ご飯とみそ汁」（授業者：阪本育美教諭）

由良小学校6年「まかせてね 今日の食事」（授業者：津村和紀教諭・田中安耶教諭）

研究発表：南部郷教育研究会 家庭科部会小学校部「地域の食材を使った調理」

公開授業に向けては、初めに6月の研究会において大学教員から新学習指導要領の要点や食生活領域の指導のポイントについて情報提供した後、題材選定に向けた意見交換を行った。8月から9月にかけて授業者より指導案の原案が示され、研究会の場で3回にわたって検討を重ねた。本時案のみならず「指導にあたって」や「指導と評価計画」の部分も含め、授業者のねらいや児童の実態が適切に表現できているか、出席者全員で意見を出し合いながら修正していった。特に5年生「食べて元気！ご飯とみそ汁」では具体的な教材作成が、6年生「まかせてね今日の食事」では児童にとって無理のない学習の流れとするための題材計画が検討課題となった。

研究発表については事前に南部郷地区の5校の発表についてそれぞれ原案が示され、発表内容や作成された資料について意見交換し、県大会当日の発表に向けてはその内容を踏まえて若干の修正を行うこととした。

県大会は10月26日（金）に由良小学校を会場として開催された。公開授業「食べて元気！ご飯とみそ汁」では、前時に行ったガラス鍋による炊飯実習を振り返り、炊飯の各段階でどのような変化が観察されたかを一覧にまとめ、クラスで共有していった。米が飯になる変化が意味しているものは何か、観察からの気づきを取り上げて共有することで、家庭科としての見方・考え方を醸成していく授業となっていた。家庭科の学習では実習そのものに関心が向かいがちであるが、学びを深めていくためには実習前後の学習の位置づけが重要となる。さらにこの授業では、炊き方の異なる2種類のご飯を試食させ、炊き方によってご飯の「おいしさ」が異なることを実感させたうえで、ご飯をおいしく炊くときのポイントは何なのか、観察からの気づきと結びつけながら考えさせる展開となっていた。ワークシートや動画などの教材がよく準備された授業となっていたが、児童に対して授業者側で内容の要点を示していく場面が多かったため、授業を通して個々の児童が何を学べたのか、形成的評価の在り方を今後の課題としたい。

公開授業「まかせてね 今日の食事」は、調理についてこれまでに学んだ知識・技能を生かして調理計画を立てる授業で、育成を目指す資質・能力としては「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」に相当する。調理計画を立てるだけでなく、その見直しを行う中で目的に合った切り方になっているかなど、調理の科学的な理解として「なぜ？」を意識させる展開となっていた。また、作成し

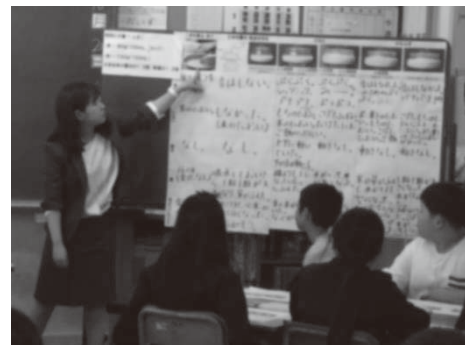


写真2 炊飯実習での気づきをまとめ、共有する



写真3 調理計画を相互評価し、改善のためのアドバイスをする

た調理計画をグループ内でお互いに検討し合う活動では、食材を切るときの厚さが書かれていないといった調理計画の不備が指摘され、より具体的に調理操作がイメージできているかの点検がなされていた。曖昧にイメージしていた調理操作は調理計画として言語化して示すことで具体化され、さらに他者からの指摘を受けてより明確にしていく活動が家庭科における言語活動として機能していた。ただし、指摘の内容にはグループや個人の差が見られ、学習の深まりにも差が生じていたのではないかと思われる。授業者が机間指導をする中で、より積極的な介入が望まれる。この授業ではこれまでに学んだことをどう生かすかが問われているので、本時の授業内容はこれまでの学びの質にも影響される。5.6年生を見通した指導計画が重要となり、カリキュラム・マネジメントの観点から研究を深めていきたい。

### 3. おわりに

小学校家庭科は5.6年生のみの教科であり、担当する教員は教員歴に比して家庭科の授業担当経験が浅い実態がある。専科が減少し、学級担任が家庭科の授業を担当することが増えていると聞くと、そういった状況の中で継続して授業研究に取り組む体制を維持するためには、複数の学校が共同して取り組む研究会活動が果たす役割は大きい。大学との連携事業はこれらの研究会活動の活性化と同時に、それぞれの研究会をつないで授業研究のネットワークを広げていく役割を担いたいと考えている。